

1. 会議名	令和6年度 第2回出雲市子ども・子育て会議
2. 開催日時	令和6年8月23日（金曜日）14時～16時
3. 開催場所	出雲市役所本庁 6階 全員協議会室
4. 出席者	<委員> 原 広治委員（会長）、高橋恵美子委員（副会長） 吉井安見委員、田村尚基委員、槇原綾子委員 今若久美子委員、野井美香委員、上野貴幸委員 渡部英二委員、飯塚由美委員、佐野美保委員 廣戸悦子委員、原 久子委員、堀江泰誠委員 梅野名美子委員、高橋義孝委員 （欠席） 本田一勇委員、芦沢隆夫委員、糸賀元次委員 甲山美紀恵委員 （以上、順不同） <事務局> 子ども未来部長、子ども政策課長、保育幼稚園課長、 健康福祉部次長（福祉推進課長）、健康増進課長、 市民文化部次長（市民活動支援課長） 児童生徒支援課課長補佐 縁結び定住課長ほか
5. 次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 報告 （Ⅰ）「今後の市立幼稚園のあり方」の答申について 4 議事 （Ⅰ）「出雲市こども計画」の素案について 5 その他 （Ⅰ）今後のスケジュール 6 閉会
6. 議事要旨	以下のとおり
事務局	Ⅰ 開会 定刻に開会。 2名が新たに委員に就任したことを説明。 就任した野井委員の自己紹介（省略）

	〔会議成立〕 委員20名中16名が出席し、出雲市子ども・子育て会議条例第6条第2項により、定足数を満たしていることを報告。 〔会議の公開について〕 本会議は出雲市子ども・子育て会議規則第3条第1項の規定により、公開で行うことを説明。
会長	2 会長あいさつ 皆さん、おはようございます。暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。先ほどエレベーターの中で、この暑さが10月まで続くという話を聞きましたが、その中でも子どもたちは毎日元気に過ごしております。先般、新聞報道で県内の虐待件数が500件を超えたという話が出ており、心的虐待が多いという話もありました。出雲市こども計画において、子どもをどのように育てるのか、保護者や大人に対して、親になるということをどう伝えていくのかなども計画の背面にあると思っております。その意味で多方面の方々が出席されている会議ですので、どうぞ今日はよろしくお願いいたします。
事務局	3 報告 （1）「今後の市立幼稚園のあり方」の答申について ＜資料Iを用いて説明＞
会長	ありがとうございました。ただ今の説明に対して、ご意見、ご質問があればお願いいたします。
委員	審議会の様々な方面からの見方で作っていただいたのだろうと考えております。認定こども園などに関しては、存在はしておりますが制度自体が現状にそぐわない部分、理屈に合わない部分があります。市立幼稚園の存続も含めて、こういう案もあるということで解釈させていただいております。 また、幼稚園の延長保育に関しても、本来は保育園が無い場所の幼稚園が保育を補完するための制度でしたが、段々と幼稚園を存続するための制度に変わってきています。つまり、保育園の隣にもう1つ保育園があるということになります。人口減少が進む中、今度は社会福祉法人立の保育園などで定員が割れる場所が出てきます。その時に市立幼稚園を更に保育園

	化していくのは、いかがなものかと思うところもあります。制度を進めるだけでも多額の費用と人手も必要になります。これからの幼稚園のあり方について、今後話を進める中で我々協議会としての話も聞いていただきたいと思っております。それをもって市の方針をしっかりと定め、子どもたちの安定的な幼児教育、保育を確立させていただきたいと考えております。
会長	ありがとうございました。幼稚園・こども園側から何かありますか。
委員	園児数の減少や少子化、保護者の就労形態の変化などから、現在こうしてあり方を検討していただいております。地域や保護者の意見を聞きながら、今後のあり方について検討していくスケジュールも組まれております。少し話は飛びますが、計画の素案にある若者へのアンケート調査結果の中で、「将来何人子どもを産みたいですか」などの設問がありました。 自分の予想と異なる結果も多くあり、教育関係に携わっている私の感覚と実態とのズレがあると感じました。地域や保護者の意見を聞きながら、今後のあり方を考えていくことがとても大事なことだと思っており、行政と連携していきたいと思えます。
会長	ありがとうございます。感覚のズレという話がありましたが、社会の変化が激しい中、それに対してどのように対応していくのかが重要になります。「対応」という言葉は少し合わないかもしれませんが、子どもが育つということが大前提で、そこに向かって大人たちがどう考えていくのかということだと思えます。 その他のお立場からご意見、ご質問があればお願いします。
委員	私が愛育会会長として参加している上津幼稚園は児童が3名で、最初にご説明いただいた9名以下の幼稚園になります。新聞などでこれらの答申について報道が出ており、地域としても幼稚園の運営協議会の中で、どのような方針でいくのかという検討にやっと入ってきたように感じます。今年度中に基本方針を定めることになっておりますが、十分に検討する時間も必要なのではないかと思います。地域の中で様々な年齢や世代の方がおり、若い方の中には少子化になっている現状を理解している方もいます。しかし、地域に幼稚園を残したいというご意見もあるため、簡単なことではないと感じております。それをこの場で皆さんに分かっていただきたいなと思っております。

会長	ありがとうございました。地域の実情について、今のご意見を加味しながら進めていけたらと思います。他にご意見やご質問はありますか。
委員	毎年、県から教職員名簿という冊子が届きます。今までは「幼稚園」として教職員の名前が挙がっていましたが、今年は松江市が「幼保園」として挙がっていました。松江市は完全に幼保園に舵を切ったのだなと驚きました。出雲市は、幼稚園があったり保育園があったりします。保育園は厚生労働省の管轄と言っても、子どもたちを教育して成長を促すということが大事な役目だと思いますので、出雲市としてはどのように進めていくかなど、色々と判断を求められるなと思っておりました。 私が勤務している平田地域では連携が取れており、幼稚園の研究事業なども一学期に様子を拝見しました。幼稚園の先生方がものすごく熱心に自分たちの教育について研究をなさっていて、素晴らしい実践をしていらっしゃいます。やはりそれぞれの幼稚園や保育園の良さがあると思いますので、そこを上手く組み合わせて子どもたちにより良い教育をされたら良いと思っております。幼稚園の職員は「幼稚園の教諭」を目指して勉強や研修もされており、保育園の職員も同じだと思います。子どもたちもすごくはつらつとして自主的な活動をしておりましたので、そういう子どもたちの成長が見られる教育施設が出来上がるといいなと思っております。
会長	実際に現場を見た感想を含めてお話しいただきました。ありがとうございます。他にご意見やご質問はありますか。
委員	先日、出雲市議会の文教厚生委員会でも、堀江先生はじめ保育園の園長の皆さんとも懇談する機会を設けていただきました。出雲市内で言うと保育園などは民間や私立の施設が非常に多くなっており、保育ニーズを民間で賄っていただいている状況です。一方で公立もあるため、それぞれすみ分けをすることによって、多様な保育ニーズや幼児期の需要に対応してこられたと認識しております。 今日ご説明いただいた中でも、多様な保育ニーズに对应していくということが記載されています。これまでも多様なニーズというものはあったと思いますが、新たに出てきたニーズや傾向の変化などをもう少し深く、広く説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。
事務局	新たなニーズについては、特に障がいを持つお子さんや特別な支援を必要とするお子さんが非常に増えてきております。幼稚園でも加配をしたり、人員を増やして保育をしていただいているところですが、それでも追

	い付かないぐらい人数が増えている状況です。また、出雲市の特徴的な部分として、外国にルーツを持つお子さんの人数が増えております。加配だけでなく、通訳ができるポケトークのようなものを利用したり、市の通訳の方を派遣したりしていますが、十分に対応できていない状況です。保育所も同じ状況ではないかと思っており、この辺が新たに増えているニーズであると認識しております。
会長	ありがとうございました。他にご意見やご質問はありますか。
委員	私はこれまで出雲市教育政策審議会にも出席しておりました。幼稚園や保育園の実情を知るため、3つの幼稚園と北陵幼保園に見学へ行き、現状を見てきました。現状を踏まえると、教育・保育についてひとまとめに考えていくことは難しいと委員の皆様もよく分かったと思います。園児数が少なくなり閉園協議に入った園が、地区の方や近隣の保育園と協議したり、色々してこられたことも聞きました。各地域で実情が異なるので、「園児数が少なくなったから地域と話をしましょう」ではなく、幼稚園や保育園のあり方について地域の皆さんがもっと話し合いに参加して、色々な意見を出して協議されるのが望ましいことだなと感じました。
会長	一律の物差しで測るのではなく、実情も考慮して検討するということですね。ありがとうございます。子どもの状況は多様になっていますが、大人のやり方が多様ではなくなっていることが危惧しているところです。実情も考えながらご検討いただきたいと思います。 他にご意見やご質問はありますか。
委員	認定こども園化について、市立幼稚園を閉園して近隣の保育園と合わせて認定こども園化をする実例が多岐などであります。これは今のところ、来年から園児が入ってくる予定が無いので、近くにある保育園になんとかしてもらおうというのが実情です。少し話を聞きましたが、北陵こども園は元々私立幼稚園が認定こども園化された言わば法人立の園のため、意味合いが全く異なります。基本的に園児数が少ない幼稚園にはもうニーズがなく、あとは保育園になんとかしてもらおうという形しかなかったのが、今回、市立幼稚園のあり方を示されたのは本当に素晴らしいことだと思っています。今ある幼稚園を認定こども園化するためには、施設整備などで多額の費用がかかりますが、そこに子どもたちが在籍しているのかという話になってきます。子どもたちがいないから幼稚園が利用できない施設になって、民間に何とかするよう話があり、近隣の保育園が手を挙げざるを得

	なくなります。そこにはまだ子どもたちが在籍しているため、その子たちを何とかしなければならぬので認定こども園化になるわけです。法人立の認定こども園化は、元々の施設を使えば良いので我々にとってはやりやすいですし、当時は国から補助金が出ていたので移行しやすい時代でした。我々民間の資金にも限界があり、手を挙げなければよいという人もいますが、まだ通っている子どもたちがいるので何とかしなければならぬという思いがあります。こうやって様々な意見を出しながら前向きに早期に話し合いを行うのは、我々としては感謝しているところであります。やはり子どもが在籍しているとき、そして我々民間がきちんと対応ができるときに論議をしていただけることは、本当にありがたいと思っております。是非とも出雲市としての方針をしっかりと出していただいて、民間の資金を充当できるような施設を作りあげないといけないと思っております。民間の財政が困難になってしまったときに保育がなされなくなるのは当然の話になってきます。ニュース等でも報道がありますが、社会福祉法人のため、ある日突然閉園になるということがこれからも起こり得ます。そうならないように、できる限り効率よく考えていく必要があると思っております。
会長	ありがとうございました。とても重要なお指摘をいただいたと思います。この答申もですが、それを受けた議論をとことん詰めていただきながら、限られた資源も含め出雲市全体で子どもを育てていくという迫力ある基本方針を導いていただきたいと思います。 私は特別支援教育や子育て支援が専門ですが、幼児通級関係の充実などについて答申を読ませていただくと、これだけの人数で対応しているという基本的な内容は書いてありますが、そこでどんなことをしているのかは書けない部分だと思います。限られた人数でどんなことができるのか、足りないのか多いのかななども含めて、より突っ込んだ質に関する議論もしていただきたいと思います。
委員	松江市の認可保育所のサポートをさせていただいており、その観点から松江市の取り組みをお話させていただきます。3ページに出てくる「インクルーシブで多様な保育」について、最近「保育所等訪問支援」を使った、外部から専門家が来て療育をする活動が増えてきていると感じています。出雲市がどのような取り組みか分かりませんが、松江市ではそのような事例があると思いだしたので、この場で発表させていただきました。
会長	ありがとうございます。私は障がい者施策推進協議会にも入っているの

	ですが、そこでも先ほど例に出された保育所等訪問支援の充実に対する意見が出ておりました。現状を踏まえて更にどうするのかも議論の1つに入っていて、総合的な話を進めていただきたいと思います。
委員	出雲市で特別支援を受ける園児への対応ですが、5歳くらいの早い段階から小学校の方に情報が入ります。園から保護者の記録などが上がってきて、5歳の終わりくらいから連絡を取ったりします。園の方も放課後デイサービスや小児科の受診を勧めたりとサポート体制ができています。保護者が子どものことをどう受け入れるかは、保育園や幼稚園の約2年間の対応によって、きちんと子どもを受け入れた状態で学校に来てくださるのでとても助かります。出雲市でもやっておられますのでご安心ください。
委員	放課後等デイサービスは小学校からの利用なので、児童発達支援を使われているということで、事例をありがとうございました。
会長	ありがとうございました。他にご意見はよろしいでしょうか。 (意見なし)
会長	それでは頂いたご意見を踏まえて今後進めていただきたいと思います。
事務局	4 議事 (1) 「出雲市こども計画」の策定について ＜資料2、資料2（別冊）を用いて説明＞
会長	ありがとうございます。ただ今の説明について、ご意見、ご質問、感想も含めて何かあれば頂きたいと思います。まず計画名や基本理念の副題について、何かあればお願いいたします。 (意見なし)
会長	全体を通した話ですが、「こども」という言葉は複数人を表しており、「こどもたち一人ひとりが主人公」という副題は「こども一人ひとりが主人公」とは何か違うのかと思うところがあります。計画全体で「こども」と「こどもたち」の両方の表現があり、場合によっては分ける必要があります。「こども」という言葉が複数人を表していることを踏まえて考えていただき、議論いただきたいと思います。

会長	計画名や基本理念の副題について、またご意見などあれば、後から頂きたいと思います。続いて、基本方針1について、ご意見やご質問があればお願いいたします。 (意見なし) 続いて、基本方針2について、ご意見やご質問があればお願いいたします。全体を通して「こんなことがあっても良いのではないか」といったご意見もあれば、ご指摘いただきたいと思います。今回は、青年期の部分を新しく追加したとご説明いただきました。特にその部分はコラムとして入れたり、より分かりやすくしていただいております。ご意見、ご質問はございませんか。 (意見なし)
会長	続いて、基本方針3について、ご意見やご質問があればお願いいたします。
委員	「全てのこどもが健やかに成長できる」という点について、現在の問題の1つとして、市内でも人口が減少している地域で保育所が無く、共働きの世帯が圧倒的に多くなり、幼稚園に通う子どもが少なくなるということがあります。どこに住んでいても子どもたち一人ひとりが、幼稚園や保育所などの身近な所にアクセスできる要素を取り入れた計画になってほしいです。人口減少が進む中で限界もあるとは思いますが、市中心部から離れた地域では園児数が少なくなってくる傾向があります。地域の子どもにどう幼児教育・保育の場を提供できるのかも含めて考えていただきたいと思います。
会長	ありがとうございます。地域の実情もありますが、できるだけ子どもたちの身近な所で支援につなげていくということだと思います。乳幼児期の支援にも関係する内容かと思いますが、どちらにせよ全ての子どもたちが同じような暮らしぶりができることが必要だと思います。 他にご意見、ご質問はございませんか。
委員	これから更に育児休暇制度が充実してくると思います。今後充実してくると、0歳児の子どもたちを家で見るができるので、実は保育園にとっては痛手である感覚があります。しかし、0歳児を家でずっと見ている

委員	から大丈夫という話にはならないわけで、今まで保育園が担ってきたものを限りなく保護者が担っていくことになります。そこで支援センターなどの支援体制の充実を出雲市としてどのように考えているのか、なかなか今までどおりではいけないだろうという気がしています。今でも0歳児の中でも3か月くらいの子どもも入所しており、その保護者のほとんどが初めての子どもで子育てについて何も分からないという状況です。保育園に入所さえしていただければ、病気やトラブルなどもある中で子育てについて考え、色々な先生方や保護者同士で話し合いもできます。そういう面を今度は地域の支援センターで担っていただかなければならないと肌で感じています。 また、計画の中には入ってないですが、「こども誰でも通園制度」というのをニュース等でお聞きになったことがあるかと思います。実際、中国地方の中で島根県だけが実施件数が0件となっています。これはまだ試行段階で、施設側が手を挙げていないだけの話なので、行政として実施するという形にはなりません、新しい制度自体がどのようなものか全く分からない状況の中で、マンパワーを配置するわけにはいかない状況です。補助金等の額が少なすぎて、どこも手を挙げようがないのが実情です。しかし、令和8年か9年には全国的に制度実施となります。そうするとどんな制度であろうと、出雲市としてどう実施するのか打ち出さなければならなくなります。施設に入所するというのではなく、家である程度の期間保育される方について、こういう制度や支援センターの充実は、これから考えていかなければいけないものだろうと思っております。 中には発達支援が必要な子どもたちがおり、保育園の中にと分かりますが、家にと分りにくいです。大体1歳から2歳くらいである程度目星を付け、そこから保護者と4年間くらい慎重に対応していきます。時間を掛けてやっていかなければいけないですが、保育園に入っていたら色々な制度を利用してある程度ルートに乗せることができます。しかし、家にいる子どもたちは、なかなかそのルートに乗りにくいというところがあります。これから時代が変わってくる中で、そういう子どもたちの制度に関しても充実をさせていかなければいけないと思います。 私たちは世帯中心の活動をしており、毎月「赤ちゃん声掛け訪問」で全戸訪問をしている中で、色々な訪問先のご家庭の方と話す機会が多いです。私がいる地区は年間30人くらい子どもが生まれ、そこへ全部訪問しております。最近、共働き世帯であっても仕事を辞めて家で子どもを見たいという家庭が少ないように思います。「家で子どもを見たいけれども、周りの子どもがみんな保育園へ行ってしまう、子どもと関わる人や他の保護
----	---

者と関係性を持つ機会が少なくなっている現実をどう思いますか。」という質問を受けたことがあります。「自分が子どもを見たいけど、家にいるしかないので1年育休を取って考えてみる」という方が増えており、実際に家で見ているお母さんもおられます。出雲市がどういう実態か把握するために全部の支援センターを回って見えています。月1回、塩冶など色々回っていますが、そういう所に来ているお母さんたちは、自分で我が子連れてきて遊びを促し、支援員は安全管理のみを行っている場所が多いです。相談したいことがあれば個別にセンターへ行かれると思います。相談機関の他にもベビーマッサージ教室や離乳食教室など様々な企画がありますが、全て親の選択で、親がどうしたいかに意味があると思っています。保護者が子どもをどう育てるか、どう関わるかといった根本的なところを色々な施策の中で大切にしたいと思っています。大人が色々アドバイスをしたとしても、果たしてそれが子どもの発育にベストかどうかということです。

昨日、全国の会議に参加する機会があり、出雲市からは2名が参加しました。その中で「こどもまんなか社会」についての説明もされ、子どもの権利と基本理念を中心にお話されました。やはり子どもが中心であるという意味です。大人のための施策ではなく、子どもがどのようにしたら豊かに暮らせるかという子どもの権利に行きつくわけです。そこを間違えないようにしないと難しいのではないかと考えさせられました。子どもの声や意見を引き出すための環境づくりを、どこの自治体でもやってほしいと思います。どんな小さなことでも子どもの意見を聞いてあげることが、1対1や1対2くらいの少人数でないと難しいです。どうしても多くの人数を見ていると意見を聞いてあげにくいのではないかと、0歳から3歳までの小さな子には難しいのではないかと意見交換もありました。出雲市の中でどう子どもを育てて、どんな大人に将来なってもらいたいかを抜けると、自己肯定感や共有感が損なわれるのではないかと気がしました。全部大人が固めて、全部決めてしまう世界に放り込まれてしまうと、大変なことになると思っています。就労するために保育園に預けざるを得ないという方もたくさんいらっしゃいます。家で子どもを見ている人がおかしいのかという声も聞きますが、そういう人も大切な子育て世帯ではないかと思っています。将来PTAのリーダーになるかもしれないので、本当に大事なことで感じています。

自治体によっては、4歳児や5歳児からは幼稚園に通っている地域もありますので、色々なやり方の組み合わせがあるのではないかと思います。1つの施設で全て賄うという形も良いでしょうし、幼稚園も保育園もある中で、どのようにして子どもたちを教育していくのか、それぞれの強みを活

会長	かして融合させていく方法もあるのではないかと思います。出雲市の方で現状を上手く組み合わせて考えていただきたいと思います。 ありがとうございます。保育園に通う子どもの育ちと保護者への支援、ご家庭で子育てされている方への支援をどうしていくのかという話だったかと思います。例えば支援センターがあるけれども、そこに行けない人や行かない人もいて、多様な考え方の中で1つの選択をされています。子どもは、集団生活など色々な経験をしながら成長していくわけで、色々なものを用意しながら、行けない保護者に対してはどう提供していくのかも含めて考えていく必要があります。それを限られた資源の中で精一杯やるために何をする必要があるのかという視点を持ちながら、この計画にも反映させていくことかと思っています。そもそも子育てとは何かという根本についても、市が考えることなのか、保護者が考えることなのかもあるというご指摘でした。
委員	私が子ども・子育て会議に出てまだ間もない頃から、一体何割の人が保育園に赤ちゃんの時から通っているのかという疑問があったのですが、この会で一覧表が示されていました。ほとんどのお母さんは子どもが1歳になるまでは家で子育てをして、1歳になると仕事に復帰する人が多いです。1歳児で家庭にいるのは3割でした。あとの7割は1歳になったら、あるいは1歳になる前から保育園に行きます。3割の子どもたちが、地域の子育てひろばや子育て支援センターなどに出かけて私たちとふれあったり話を聞いたりしており、来てくれる人を大切にしていけないかなと思っています。それと同時に保育園の役割がとても大事だと思いました。子どものお母さんから相談を受ける中で、自分自身が親から大切にされていなかったことや、かわいがられた経験が無いと、どうしたらいいのか、どんな言葉を掛けてあげたらいいのか分からないという方に何人も会いました。「虐待は繰り返される」と言われますが、自分がわからないことはできないわけです。そのわからないことを、保育園の先生方や地域にいる私たちなどに話ができれば、ある程度解決できると思います。小さい頃から両親がいない子どもや、お母さんが仕事をしていて寂しい思いをしてきた子どもが親になり、そのような過去をもつ保護者がとても多いと思いました。自分も働かなければならないので保育園に子どもを預け、そこで良い先生に巡り合えて、食事に関しても良い栄養士さんがいて、色々な相談に乗ってもらえて助かっているという話も聞きました。子育ての1番基本は家庭ですが、家庭が上手く守られていない人たちも多いと思います。そこを補う形で、地域や保育園・幼稚園の職員がいるので、「親育

	て」という親を上手くサポートできるような計画ができるといいなと感じています。
会長	現状について、いくつか具体的な事例を出していただきました。現状を鑑みて、こういった取り組みが必要であるという計画づくりが必要で、ご意見いただいた部分も入れていくような計画づくりになれば良いと思います。
委員	先ほど堀江委員からも、子どもが小さいときは家庭で育てたいというニーズが段々と強くなっていくだろうとありました。現在、男性で育児休暇を取る方も段々増えており、一緒に子育てをしたいというニーズが高くなってきていると思います。保育園や幼稚園での集団での保育も含め、それぞれの家庭で子育てのやり方があり、出雲市に住んでいる若い人たちが子育てできるようにするということがとても大事だと思います。男性の育児休暇取得に向けた施策については何かお考えがありますでしょうか。
事務局	男性の育児休暇取得の向上について、計画の中に具体的な言葉は入れておりませんが、別冊62ページの「働きやすい職場環境づくり」「ワーク・ライフ・バランスの推進」の中で、育児休暇を取りやすい職場づくりを目指しております。考え方や視点が多様化する中で非常に重要だと思いますので、計画に盛り込めるよう検討したいと思います。ありがとうございます。
会長	ありがとうございました。他にご意見やご質問があればお願いいたします。
委員	支援センターに行きづらい方がおられるという話について、別冊40ページにある乳幼児期の支援にも記載されていますが、幼稚園や保育園で未就園児教室を今でも実施しています。1歳、2歳の小さいお子さんを連れてこられる方がいますが、時々支援センターにも行く方や、子どもの送迎で手一杯のため幼稚園と家庭がメインの方など、様々な方がおられます。月1回でも未就園児教室を開催すると、行きやすいと喜んでいる方もおられます。コロナ禍には開催を控えたり、開催しても砂場など外での活動のみでしたが、令和5年度から全て元に戻す形で開催しました。そこで、もう少しお母さんたちの思いを聞かないと要望に応えていけないと思うことが多々ありました。令和6年度も時間を延ばしたり、一緒におやつを食べるときに話をしたり、保護者の思いを共有できるよう工夫を始めているとこ

委員	ろです。未就園児教室や支援センターには行けないけれども、上の子が通う幼稚園や保育所でも、思いを聞いてもらいたい方が出かけやすい支援を継続するということでの記載だと思います。 冒頭に原委員が「親になることをどう支えるか」ということを言われて、アンケート結果にあった希望する子どもの人数も段々減っており、こういう意識になっているのだなと思いました。子育てしたいと思う層を増やしていくには、不安や負担の軽減などの支援を充実できるような、「出雲でなら子育てしたい」と思われるような内容を盛り込んでいくことが大事だと思います。 別冊39ページにある「産後ケア事業」について少しお話したいと思います。松江市で産後ケア事業を新たに行う民営の方と、そこに通っているお母さんも含めて、現状の松江市、米子市、出雲市の産後ケア事業について話をする機会がありました。私も3人子どもがいますが、どうすれば多子を産もうと思えるのかという話を、産後ケア事業を積極的に使っておられるお母さんと話しました。年齢が近い兄弟姉妹がいた場合、自分の体調が優れないけれども周りに頼れる人がいない時に通える場所や宿泊型の施設があるというのが、全国的な産後ケア事業の取り組みだと思います。米子に住むお母さんは、米子でサービスを受けようと思っても予約がいっぱいで松江市に行くそうです。「出雲市には行きますか」と聞くと、出雲市は産婦人科の病院など産後ケアの場所が限られているため行かないという現状がありました。私は乳児家庭全戸訪問事業もさせていただいていますが、色々なサービスを組み合わせることで「子どもを産もう」と思ってくれる方が出雲市にも増えてくれるといいなと思っております。全国でそのような取り組みをしている産後ケア事業をもう少し推進していただければいいなと思いました。
会長	ありがとうございました。他市がやっていることも参考にしながら、独自のものや少し膨らませたやり方を計画の中に入れていければと思います。また、他市の情報やネットワークもどんどん入れていきたいと思っています。よろしくお願いします。 KPIなど計画の評価に関わること、第4章も含めて何かございましたらお願いいたします。
委員	別冊73ページに「支援事業の量の見込みと確保方策」とあります。児童クラブは、社会情勢の変化と共に入所ニーズが右肩上がりになっております。直近の5年間で250人近く増えており、出雲市も設備をかなり拡充し

会長	てこられたので、まだまだ不満足ながらもキャパは増えてきたと思います。それと同時に1番の問題は、職員の確保になります。現在、出雲市の43か所の児童クラブでは各地域の自治協会を中心とした運営委員会を設置し、そこに委託する形になっております。残りの6、7か所は民設の保育園等が運営されているので、9割近くが委託事業となっております。この委託を受けている運営委員は充て職の方がほとんどであり、経営管理や労務管理を含めた実務的な運営が行き渡らない点が多々あります。キャパは段々と増えてきましたが、出雲市では80人から100人規模といった施設も多くあります。入所ニーズが高まる一方で、令和6年度も待機児童が発生している状況です。少子化の中にあっても児童クラブのニーズはまだ増えていくだろうと思われます。職員確保と同時に、運営の形態について、100人規模を運営することも含めて、運営委員会への委託で良いのだろうかという懸念があります。運営委員長は、自治会長が担っているところが多いですが、自治会も加入率の問題などもあり、児童クラブには自治会未加入の若い家庭が多い状況です。自治会長や運営委員長は、地域の子どもたちは地域で育てようというモチベーションで一生懸命やりますが、その対象となる家庭が自治会に加入していないことがほとんどであり、運営側のやる気についても課題があると思います。国の方針としては40人が1つの規模ですが、確保の面からすると出雲市でもまだ多くしていかなければならないというギャップがあります。そろそろ運営のあり方も見直していかざるを得ない時期に来ているのではないかと思います。指定管理者制度や、もう少し民間に幅広く委嘱するなど、きめ細かい受け入れ体制を設けて、「こどもまんなか」の1番大切な部分を補完することが必要ではないのかと思います。第4章は次回会議で示すそうですし、児童クラブも様々な課題に対するワーキンググループを作ってこれから議論することになっております。今後この会議で発表することになると思います。そうした量と質の部分、どのように子どもたちのための環境を作っていくのかについて、全国的にも児童クラブの運営のあり方が問われており、出雲市としても素晴らしい施設運営ができればと思い、より一層のご理解とご協力をお願いいたします。 現状について詳しい内容をありがとうございます。利用する子どもの数は増えているけれども、実際のところは運営上いくつも課題があり、運営のあり方自体を再検討していく時期ではないかということで、大きな問題ですのでまた議論をしたいと思います。 他に全体を通して何かありませんか。
-----------	--

委員	この計画自体が極めて幅広い内容で、「こういうこともあるな」と思いながら目を通しておりました。個々の内容について、非常に強い公的責任が求められるものと、そこまでではないが社会的には非常に重要なものについて、外部の機関や団体などと市と一緒に担っていくなど様々なパターンがあると思います。そういったことを計画の中でも整理をしていく必要があるのではないかと感じました。例えばこども食堂について、立ち上げの支援が書かれております。現在、出雲市は31か所あり、松江市が25、26か所で県内でも1番多い状況です。私が所属している社会福祉協議会の方で、地域でそういう志がある方と話をしながら立ち上げてきたという経緯があります。市が全てをカバーするというのは現実的ではないと思います。市がどういう関わり方をしていけばこういう活動が育っていくのかという、全体を貫く考え方というものが必要になってくると思います。お金を補助すれば済むという話ではなく、個別の法的関与の濃淡やどこに協力を得て発展させていくのかという視点を入れてもらうことで、この計画を前進させていくことにつながってくると思います。
会長	ありがとうございました。そういう部分が無いと、正に絵に描いた餅になる可能性が出てくることがあります。ずっと長く続くような一貫したものを考えながら、公的責任が強いものや社会的に重要なことを少し色分けしながらまとめていくというご指摘でした。 その他にご意見、ご質問はありますか。
委員	私は松江市の民営の学童クラブをサポートしております。「放課後児童健全育成事業」の運営のあり方として、松江市と出雲市の違い考えたときに、やはり民営の数が圧倒的に松江市の方が多いです。松江市は公設の施設について、令和7年度から指定管理の募集をしていました。同じ島根県内なので事例を聞いていただき、運営協議会でも運営の仕方についてお話されると思いますが、是非その辺りも情報共有、検討していただければと思います。
会長	ありがとうございます。情報を収集しながら、なおかつ検討していくというご意見でした。その他にご意見、ご質問はありますか。
委員	同じく児童クラブについて、私も運営協議会に校長として出席します。地域の方や保護者代表の方も出席され、特に安全のことをとても気に掛けていらっしゃると思います。市から出たお金を子どもたちのために使うこと、頑張っている職員の時給が低いこと、児童クラブの責任者が苦勞しているこ

	とがよく伝わり、出かける意義があったと思っております。地域の方に子どもの様子を知っていただくことは、無駄ではないと思います。私も会議に出て、児童クラブの苦労や力を注いでおられることがよく分かりましたので、大変かと思いますがよろしくお願いいたします。
会長	ありがとうございます。まだまだご意見があらうかと思いますが、時間が迫ってきているため、会議後に事務局までメール等でお送りいただきたいと思います。それも含めて検討を進めさせていただきたいと思います。それでは予定しております内容につきましては、これで全て終了いたしました。全体を通して何かあればお願いいたします。 (意見なし)
会長	委員の皆様ありがとうございました。それでは会議を終了させていただきたいと思います。この後は進行を事務局へお返しいたします。
事務局	会長ありがとうございました。委員の皆様も長時間にわたりありがとうございました。それでは閉会に当たりまして、子ども未来部・部長の金本からご挨拶申し上げます。
部長	本日はお忙しい中、また暑い中、お出掛けいただきましてありがとうございます。本日は大きく2点議題がありましたが、皆様からたくさんの貴重なご意見を頂きました。最初の「市立幼稚園のあり方」については、来週から各地域の運営協議会を一つひとつ回って話を聞いた上で、保育協議会をはじめとした関係の皆様との意見交換をして、年度内に方針を作っていきたいと考えているところです。また、こども計画についてはライフステージに沿った支援ということで、非常に多岐にわたる内容でした。本日も意見を言いきれなかった部分もあらうかと思います。本日頂いた意見は当然のことながら、後日頂いた意見も含めて内容を調整し、次回の会議でお示しさせていただきたいと思います。たくさんのご意見ありがとうございました。 さて、甲子園での大社高校の活躍で勇気と感動を与えていただきました。野球のことが大きく注目されていますが、これ以外にも市内の高校生が活躍しており、先般行われたインターハイでは、出雲高校の弓道部が女子団体で優勝、カヌーでは出雲農林高校の選手がある種目で優勝し、卓球では北陵高校の選手がシングルスで優勝しました。出雲の子どもたちが暑い中活躍しているという状況でございます。我々も若い世代に負けないように

事務局	していかなければいけないと思っております。本日のこども計画の理念にもあるとおり、子どもたち一人ひとりが将来夢と希望が持てるように、我々職員一同、一生懸命頑張っていきたいと思っております。皆様方には引き続きご支援・ご協力をいただきまして、閉会にあたっての挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。 5 その他 それでは2点ご連絡をさせていただきます。次回の第3回子ども・子育て会議は、11月5日（火）14時から開催する予定としております。委員の皆様には改めてご案内いたしますので、ご出席いただきますようよろしくお願いいたします。本日お配りした資料の中に、「こども計画に関する意見について」というA4の1枚紙をご用意しております。本日会議の場では言い尽くせなかったことなど、こども計画に対してご意見などがありましたら、9月6日（金）までに子ども政策課までご提出いただきますようお願いいたします。 6 閉会 それでは、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。次回の会議もどうぞよろしくお願いいたします。気を付けてお帰りくださいませ。ありがとうございました。
事務局	